

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270102629		
法人名	有限会社ヘルパーステーションぬくもりの家		
事業所名	グループホームぬくもりの家		
所在地	長崎県長崎市大手2丁目1番63号		
自己評価作成日	平成 22 年 9 月 1 日	評価結果市町村受理日	平成 22 年 10 月 18 日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do">http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活法人 ローカルネット日本福祉医療評価支援機構
所在地	〒855-0801 長崎県島原市高島二丁目7217 島原商工会議所1階
訪問調査日	平成 22 年 9 月 28 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

古い民家を改築した建物で、昔を思い出す様な物や雰囲気があります。ホーム全体が広くないので利用者の方との距離が近く、一人ひとりの利用者の方に対して、状態・状況に応じた対応が取れやすく、精神面・身体面を考慮し、言動や行動、表情など良く観察した対応や支援を行うことができます。  
ご家族、職員、地域の方々の温かな支えとつながりを大切に、日々楽しく、安心して過ごすことができるホームだと思います。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当該ホームは、食堂兼居間の改築を最近終えられ、広くなった事により余裕をもってケアに関わる事が出来る反面、利用者の転倒を案じられているが、職員のチームワークをもって細やかなケアに努められている。また、ホームの理念に添って、しっかりとした意識付けを持ち、利用者にとって、どのような事に努めなければいけないかを考慮して、職員の業務担当(行事・園芸・備品整備・食材購入等)により、更に行き届いたサービスに努められている。また、地域に密着し、地域の理解と協力が重要であるという事を念頭に、運営推進会議に民生委員の他に、地域住民2名に参加頂き、情報の共有と日々の協力を得られている。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

# 自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Altキ-) + (Enterキ-)です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所開始からの理念と職員の基本理念と共に、共有し実践に努めている。	ホームの名前であるぬくもり・優しさ・笑顔を基本とした理念を日々唱和して、職員の意識付けをしっかりと持ち、利用者の心に寄り添ったケアの実践に努められている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会や地域の一員としてのつながりを大切にしている。催し物への参加のお誘いや、近隣の方々と気軽にあいさつやお話をしたり、頂き物があつたりと交流輪が広がっている。	自治会に加入しており、利用者の楽しみ事へと反映されており、地域の行事の際には、声を掛けていただいている。夏祭りや健康教室の参加は、利用者の意志の確認と状況に応じ、考慮されている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	外出することが増え、少しずつではあるが地域との交流の中で理解や支援を頂いている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族、自治会、地域、行政の方々へ状況等についての報告を行い、意見交換、又はご指導を頂き、サービスの向上へ活かしている。	運営推進会議に自治会の方や地域住民の方が2名参加頂いている。地域の見守りと自治会の広報誌「大手門」への掲載や交流で、地域参加に反映できている。今後も、2ヶ月ごとの実施を予定されている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	相談や確認、分からないこと等があれば、その都度連絡を行っている。市役所へ直接話を伺いに行くこともある。	生活困窮の利用者のための支援を行政に相談したり、不明なことがあれば解決に向けて積極的に取り組まれている。地域包括支援センターと市の協力により、運営推進会議においても協力的な意見が得られている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束のないケアを実践し取り組んでいる。会議の中で勉強会を行い認識を深めている。	日中、玄関は開放されている。利用者が外出されるときは、止めることをせず同行をされている。玄関を出てすぐ駐車場と道路に面しているため、常に、見守りを怠ることのないように努められている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会議やミーティングで話し合い、常に職員が意識し、毎日のケア・対応に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、制度を利用している方はいないが、必要があれば、ご家族へ制度や支援事業について活用できるように支援している。職員に対しては勉強会や話し合いの機会を持ち、認識とサービスの向上に努めたい。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、契約内容の説明を行い、同意を得ている。利用者の状態やご家族の不安・思いを聴き、ケアやサービスへ活かせるようにしている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に家族と話をする機会を頂き、近況報告をしている。担当者がいるので関わりを持ってもらっている。外部へは契約時や話し合い時に、遠慮することなく市・国の機関へ意見等を話すよう説明している。	家族会の実施に伴い、家族の意見や要望を伺えるよう、家族も参加できる花見を実施されている。家族には、報告漏れがないように、利用者一人ひとりにぬくもり通信や面会時にはホームでの状況について報告されている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや会議に代表者等に参加してもらい、職員の意見や提案を聞く機会があり、反映してもらっている。	利用者の安全と安心した生活を支援するために、業務改善に向けて業務担当を決め、継続的に利用者本位のサービスの向上に努められている。管理者の意向を理解して職員相互の協力体制に努め研鑽されている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者等により報告・連絡を受け状況の把握と理解に努めている。今後、人事考課等の体制づくりを検討しているが、今のところ行われていない。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修等の機会の確保や希望の研修・講義があれば、参加出来るよう配慮している。法人内での勉強会も定期的に行っている。自主的に個人で研修へ行っている職員もいる。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループ内のグループホーム・施設等との情報交換を行いサービスの質の向上を図っている。利用者を通して、他施設や病院とのつながりを持ち交流を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを開始する前に面談を行い、話をする為の時間や環境づくりに努め、状況等の把握や思いを聴いている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学や契約時に話をする為の時間や環境づくりに努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族の要望、困っていることを確認した上で、身体的・精神的に必要なサービスをホーム全体で話し合い、対応に努めている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	普段の会話から教えて頂く事も多く、生活リハビリやレクレーションを通じて学ぶ事があり、お互いに刺激しながら過ごしている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会の際に状態や近況の報告を行い、何かあれば、相談し一緒に考えている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親戚や知人の方が来られた時は、お部屋でゆっくり過ごして頂いている。お話の中で出てきた場所など、ドライブや買い物時に立ち寄れるよう支援している。	家族や知人の訪問は多く、家族との会話の中で行きたい場所などを聞き取り、女神大橋へドライブに行かれたり、常に利用者の立場を考慮して関係継続の支援に努められ、家族の協力も得られている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の利用者の性格・精神状態を把握し、利用者同士がより良く関わり合えるように努めている。スペースが狭いので関わり合いは深く、口論になることもあるが、利用者同士が労わり合い過ごしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスの利用が終了しても、ご家族との連絡やご本人へ会いに行き、本人と家族が安心出来るように努めている。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中での会話や気づき、ご家族からの情報により、本人の意向・希望に添えるよう努めている。	利用者の思いを得られた時は、その都度申し送りや記録に残して、「あん時はよかった」と満足して話されることを職員は喜びとして支援に努められている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用開始時に、本人の状態、生活環境等、関係者の方々より確認している。入居後も同様にその人らしく生活できるように努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの日課を大切に、日々の生活の様子を日誌や申し送り等へ書きとめ、情報を共有し、現状の把握に努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の状態や思い・家族の思い等を聴き確認しながら、職員全員で話し合い介護計画を作成している。状態に変化があれば、その都度話し合いを持っている。	すべての職員が解かり易いように、チェック方式や特記事項を蛍光ペンで囲んだり、記録方法の簡素化に努められている。今後も、センター方式を勉強して、よりよいプラン作りに向けての取り組みを考慮されている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に添って個人日誌を作成しており、個人の状態・様子を記入している。又、状態の変化等があれば記事に記入出来るようになっている為、情報の共有や実践に生かしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状態や家族の希望・思いがあれば、他機関等へ確認しながらサービスや計画へ反映出来るように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	外部との交流の機会を持ちつつ、家族との関わりを大切に、楽しく過ごすことができるように支援している。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望・状態に変化があれば、かかりつけ医との連携をとり、適切な医療が受けられるように支援している。	他科受診の支援は、家族の同伴をお願いするが、出来ない際は、手数料がかかることを伝えて支援されている。また、家族の親戚の歯科医院より、週1回の訪問診療で口腔ケアの指導を受けている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホームには看護師は不在だが、かかりつけ医先の看護師へ日々相談や連絡を取り合い、指示・対応が出来るような体制を築いている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族や主治医・看護師・病院関係者との連絡や相談を行い、状態の回復に努めている。病院へ来訪し、情報交換等も常に行っている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方について、ホームの方針を説明し、文書にて同意を頂くようにしている。(全利用者ではないが、進めているところである。)	利用者一人ひとりの生活状況を把握した上で、家族にホームの方針を明確にした文書にそって説明をされ、家族、医療、ホームの連携において支援を考慮されている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時対応や事故発生時等のマニュアルをデスクの棚において置き、いつでも見れるようにしている。必要時に勉強会を行っている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の避難訓練は行っているが、地震・水害等の対策は出来ていない。自治会やご近所の方々の温かい協力を頂いている。	夜間想定避難訓練では、地域の方にも参加頂き、拡声器等で火災発生を早く知らせることで地域の協力をえることを重要視されている。日々のチェック点検、コンセント周りの掃除の他、広域避難場所も確保されている。	地理的な避難対策としては、十分に話し合い地域の協力を得ることができているが、常に、利用者の安全確保の視点から緊急時持ち出しファイル(顔写真入)を作成される事に期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声かけと確認を常時行い、一人ひとりの思いと人格を尊重しケアと対応に努めている。	利用者一人ひとりと笑顔で楽しく会話をしながらも、どういう点に配慮していけばよいのか、どういう点を守ってあげればよいのか常に、考慮されている。言葉掛けを大切に日々ケアに努められている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりと穏やかにゆっくりとした話ができる環境作りに心がけ、日々今に思いや望むことを聴いたり、伺っている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの日々の日課は決まっているが、その時々状況に応じて希望にそって支援している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の着替えは、本人へ確認し服装を決めたり、一人ひとりに合わせおしゃれができるように支援している。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの好みを確認し、状態に合わせて提供している。出来る限り自分の力で食べて頂けるように食事の形態や食器等も変えている。盛り付けや下ごしらえ、片付けも楽しくして頂いている。	利用者の意見を得られたときは、職員の配慮不足を反省して反映し、要望に答えて楽しみな食事となるように支援されている。味見等、一緒に調理をして頂けるので、食事中の利用者の満足そうな笑顔が見られた。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分量のチェックを行っている。献立表を立て、その時々新鮮な物や、適宜、好みや食べたい物を確認し提供している。体調や状態に応じて、食事の形態を変えている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを行い、個々に合わせての口腔内のケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のチェックを行い、一人ひとりの排泄サイクルに合わせ、トイレでの排泄を支援している。	排泄の自立に向けて、トレーニングパットの使用の利用者も日中はポータブルトイレ及びトイレでの排泄を心がけて支援をされている。排便についても、野菜ジュース等、食事での配慮を心がけられている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄のチェックを行い、主治医の指示のもと排泄のコントロールを行っている。毎日の運動や食物繊維を多く含んだ物や乳製品を取り入れ、腸内環境を良くしていくようにも努めている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は決めているが、状態や希望により変更でき、ゆっくり入浴できるように時間のゆとりを持っている。	入浴日を月、火、木、金の午前2名、午後2名と決めているが、ゆとりを持ってゆっくりと入浴してもらえるように臨機応変に対応されている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人のペースに合わせて休息して頂いている。状態に合わせて、マッサージや足浴など取り入れている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容・説明等は確認できるようにしている。重要なことは、その都度説明し、伝達ノートへ記載し、赤のマーカーで印している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの能力や生活歴を活かし、生活リハビリとして取り入れている。出来ること・やりたいこと・好きなことを確認し、日々できるように支援している。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの希望や状況により、近隣の散歩や買い物・ドライブ等で外出の機会を作っている。ホーム全体でも花見等、楽しんで頂けるように支援している。	利用者の思いを日頃より聞き取り、体調の良い時に職員と一緒に出かけたり、家族と利用者が楽しんで過ごせるひとときを大切にしている。行事の計画はあくまでも予定であり、無理をせず一人ひとりの思い出に繋がる外出を心がけて支援されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持・管理が難しい方は、ホームで管理を行うなど、入居者の状況に合わせて支援している。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望や精神的に落ち着かない時など、家族と話ができるよう支援している。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	狭い空間の中での音の響きや視界へ入る刺激があり、けして居心地の良い環境とはいえないが、物の配置の工夫や季節感のある置き物、花々を生けたりと過ごしやすくように配慮している。	食堂兼居間を広めに改築され、構造上柱を除くことはできなかったが、心にゆとりを持てる住環境が整っている。和やかに食事をされている様子を、相互の支え合いと安堵感に感じることができる。浴室が狭いので次の改築は浴室をと望まれている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	狭い環境の中、お互いを思いやり、仲良く談話等して過ごしている。又、自由に居室へ戻り過ごしたりもしている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の大切にしている物や使い慣れた物を持って頂き、安心して生活してもらえるように、本人・家族と相談し、過ごしやすい環境作りをしている。	ベッド、箆笥の他、利用者の身の回りの品物等で趣の違う居室は、心やすらぐ雰囲気があり、馴染みの品物の持込への声かけも日頃よりされている。改築された部屋には押入れを設けられ、落ち着きのある雰囲気である。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの能力や残存機能を活かしながら、ベットやタンス等の配置を考え、出来る限り自立した生活と安心して送れるように支援している。		